

新規事業採択時評価結果（平成18年度新規事業化箇所）

担当課： _____

担当課長名： _____

事業の概要

事業名	一般国道342号 <small>はないづみ</small> 花泉バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	岩手県
起終点	起点 岩手県一関市花泉町金沢 終点 岩手県一関市花泉町涌津	延長	4.86 km		
<p>事業概要</p> <p>一般国道342号は、秋田県横手市を起点として宮城県登米市に至る延長約160kmの幹線道路であり、岩手県広域道路整備基本計画における地域形成型広域道路及び岩手県地域防災計画における緊急輸送道路に指定され、岩手県南部と宮城県石巻市周辺を結ぶ物流、防災、観光を支える重要路線である。花泉バイパスは一関市花泉町中心地の幅員狭小、急カーブが存在する人家連担区間を回避することにより、車両及び歩行者の安全確保を目的とした延長約4.86kmの2車線道路である。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>当該路線は一関市周辺に集積している工業団地と宮城県石巻港を結ぶ物流路線であるとともに、平泉町の中尊寺を代表とする岩手県南の観光名所と宮城県沿岸の南三陸国定公園の各観光地を結ぶ観光ルートとしての役割を持つ重要な路線であり、経済、観光の発展を支援することを目的としている。</p> <p>全体事業費 29.7 億円 計画交通量 9,426台/日</p> <p>事業概要図</p>					

<p>関係する地方公共団体等の意見</p> <p>国道342号整備促進同盟会から毎年整備促進の要望有り（会長 一関市長）</p>

<p>事業採択の前提条件</p> <p>便益が費用を上回っている</p>

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.7	総費用 30億円 （事業費：25億円 維持管理費：5億円）	総便益 82億円 （走行時間短縮便益：71億円 走行費用減少便益：10億円 交通事故減少便益：1億円）	基準年 平成18年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=2.0 (交通量 -10%)	B/C=3.4 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=2.5 (事業費 -10%)	B/C=2.9 (事業費 +10%)		
	事業期間変動	B/C=2.6 (事業期間 -2年)	B/C=2.7 (事業期間 +2年)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	注目すべき影響はない。 【渋滞損失時間の改善】 【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】 【渋滞度曲線】 【その他の特徴】		
		事故対策		通過交通のバイパスに転換し、現道の死傷事故率の減少が見込まれる。 【死傷事故率】約192件/億台キロ（現況）（死傷事故率比（県内平均比）4.73（現況）） （事故率曲線における位置：岩手県内区間の上位2割に含まれる） 全国平均死傷事故率 【その他の特徴】通過交通が排除され、現道の安全性が向上する。		
		歩行空間		現道は歩道が設置されない区間もあり、バイパスには自転車歩行者道が設置される。 (W=2.0 W=3.0m) 現道は花泉中学校の通学路（徒歩通学63人、自転車通学249人）であり、総合福祉センター、市民体育館が隣接する。		
	社会全体への影響	住民生活		日常生活圏の中心都市（一関市）へのアクセス道路である。所要時間 26分 23分		
		地域経済		県内陸部と石巻港を結ぶ道路である。石巻港～一関市の所要時間 107分 75分（三陸縦貫自動車道供用時） 急カーブ（最小曲線半径R=9m）の解消		
		災害		緊急輸送道路に指定されている当該道路の機能確保。堆雪幅の確保による冬期交通における安全性の向上。		
環境		-	注目すべき影響はない。			
	地域社会	-	注目すべき影響はない。			
事業実施環境			現道における交通量の増加に伴い、交通事故減少、産業・物流の効率化を促進する早期事業展開が必要である。			

採択の理由

<p>費用便益費が2.7と、便益が費用を上回っていることから、事業採択の前提条件が確認できる。また、当該事業箇所の死傷事故率は高く、事故対策の必要性・効果は高いと判断できる。以上より、本事業を採択した。</p>

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。